

小中学校保護者 様

教育長メッセージ

～新型コロナウイルス感染症に正しく向き合うために～

先月25日、文科省から、新型コロナウイルス感染者への差別を防ぐため、子どもたちや教職員、保護者へ、感染者を巡る差別に同調しないよう呼びかけるメッセージが出されました。このメッセージは、学校を通して既に配布させて頂きました。

報道によれば、新型コロナウイルス感染症の全国的な広がりの中で、感染者等への中傷や差別が再び激しくなっているようです。感染者を出した飲食店や学校、個人へのバッシング（誹謗・中傷）が後を絶たない状況を背景に、文科省から「緊急メッセージ」として発出されたものです。

未だ終息の兆しが見えない「新型コロナウイルス感染症予防」には、これまで同様に「3密を防ぐ・マスクを着用する・手指消毒、手洗いを励行する」など、基本的な感染予防策が提唱されていますが、十分な対策をしても感染することはあります。つまり、誰もが、いつ、どこにいても感染のリスクを背負いながら生活していると言っても過言ではありません。

感染により、身体的にも精神的にも弱っている患者や関係者、家族を、さらに追い詰めるような言動は、人として絶対してはいけませんし、許されない行為です。「病気を正しく恐れる」というフレーズがありますが、人々の敵は「ウイルス」であり、決して「人」ではありません。また、感染者や家族に対して、友達だからと「ほんの軽い気持ち・気づかい」で言葉をかけたとしても、時には、感染者や家族にとっては、さらにつらい気持ちにさせてしまうことにもなりかねません。まして、SNS等、ネット上に、伝え聞いた情報を無責任に書き込むなど、全く必要のないことです。感染者、家族、職場の人達にとって、「そっと見守る」、「回復を心で祈る」ことが、何より心の救いになることと思います。

感染症発生当初、「新型コロナウイルス感染症」は、「身体の病気であるとともに、人の心も壊すウイルス」と言われました。病気と闘わなければならない私たち自身が、互いに差別や中傷を合ったり、不確かな情報をネットにあげるなどの行為をしたりしては、人と人との絆や支え合いは破壊されてしまいます。

保護者の皆様、誤った情報に惑わされたり操られたりすることなく、また、特定の個人や学校、職場などを非難・中傷したり、うわさをしたりする行為を見つけたときは、是非やめるよう声を上げていただきたいと思います。

コロナ禍にあっても、子どもたちは暑さに負けず、感染症予防に気を付けながら学校生活を送っています。これからも、子どもたちが心豊かに安心して学校生活が送れるよう願いながら、子どもたちには、保護者の皆様とともに私たち大人が、新型コロナウイルス感染症にしっかりと正しく立ち向かう姿勢を見せていきたいと思います。

令和2年9月1日

安中市教育委員会

教育長 竹内 徹